

家庭菜園で見られる蟲たち

〔テントウムシ〕

テントウムシは、その半球型の形と赤い色からお日さまが連想されるのか、江戸時代から太陽の昆虫「天道虫」と呼ばれています。英語では多くの呼び方があり、最も普通なのは「Lady bird」です。「レディ」には貴婦人の他に聖母マリア様の意味もあり、ここでは「マリア様の鳥」ということになるのでしょうか。その他ヨーロッパでは、「マリア様の馬」「神の虫」等、いずれも崇高な名前と呼ばれています。

テントウムシは世界に 4000 種以上、日本では約 160 種が知られています。体長は 1 ミリから大きなものでは 15 ミリ程度、体色も白、黒、赤、黄色と多種多様です。そのほとんどは食虫性で、アブラムシやカイガラムシなどを捕食する益虫として知られています。天敵昆虫として昔から利用方法が検討されてきましたが、近年ようやく商品化され、イチゴ栽培の施設等で利用され始めています。

ナナホシテントウの成虫の寿命は約一年で、冬を越した成虫は 4 ~ 5 月に繁殖のピークを迎えます。その後、夏期間はほとんど姿を見せなくなりますが、秋期に再び活動が盛んになり、年間を通じて 1 雌あたり約 200 ~ 300 卵を産卵します。

テントウムシの仲間には、ジャガイモやナスの葉を食べるニジュウヤホシテントウの仲間がありますが、彼らはテントウムシダマシと呼ばれ、害虫として目のかたきにされています。彼らはおとなしく、ただ植物を食べているだけですが、それが人間の栽培植物と重なるために悪者扱いされるのは、ちょっとかわいそうですね。

